

SEIKO PRECISION (Thailand) Co.,Ltd. セイコープレジジョン・タイランド

「デリケート」な製造現場で業務革新に挑む

精密機器メーカーならではの制約をHandbookで解消

2011年10月にタイを襲った洪水で甚大な被害を受けたセイコープレジジョン・タイランド。タイムレコーダーやカメラのシャッター、高級壁掛け時計を製造する同社は復興および業務革新を加速させるツールとして、ドキュメント配信・共有サービス「Handbook」に白羽の矢を立てた。更新頻度が高いレポート類や技術文書の配信・共有など、幹部2人による試験利用で得た時短効果や情報活用の手軽さを評価し、Handbookの利用者を約50人いるマネージャー全員に拡大。印刷物の持ち込みさえ制限されるデリケートな製造現場を含む全社規模でHandbookを駆使した業務革新に挑んでいる。

POINT

- ☑ 「Handbook」と「iPad」を使い、製造現場における業務の効率化に挑戦
- ☑ マネージャー全員にiPadを配布し、Handbookによる情報の共有と活用を実現
- ☑ 徹底した防塵対策が不可欠なクリーンルームへの多種技術文書の携行を可能に



日々変化する洪水被害の状況を写真付きの復興レポートとして作成してHandbookで共有(左)。防塵対策が厳密に施されたデリケートなクリーンルームへの技術関連ドキュメントの携行をHandbookで実現している。

User Profile



SEIKO PRECISION (Thailand) Co.,Ltd.
Director (Administration)
矢田 光永 氏
やた みつなが



SEIKO PRECISION (Thailand) Co.,Ltd.
Director Precision Factory Manager
増田 修一 氏
ますだ しゅういち



SEIKO PRECISION (Thailand) Co.,Ltd.
Division Manager Engineering Division
徳増 洋一 氏
とくます よういち

SEIKO PRECISION (Thailand) Co.,Ltd.

本社所在地：104 Moo 18 Nava Nakorn Industrial
Extate Zone 3, Klong Nueng, Klong
Luang, Pathumthani 12120 Thailand

会社概要：1988年にタイのナワナコン工業団地内に設立されたセイコープレジジョン株式会社の100%出資子会社。タイムレコーダーやカメラのシャッター、高級壁掛け時計を製造する。精密機器の受託生産なども手掛ける。

従業員数：2,860名

導入時期：2012年5月試験導入、同年10月本格導入

URL：http://www.seiko-spt.co.th/



シンプルに伝える、スマートに伝える

Handbook



洪水からの復興と業務革新に際し Handbookの可能性に着目

東京から飛行機で約7時間。さらに車で1時間ほど走った先にあるタイの工業団地で、業務革新に向けた取り組みが佳境を迎えている。舞台はセイコーホールディングス傘下のセイコープレジジョン・タイランド。タイムレコーダーやカメラのシャッターなど精密機器を製造・販売する同社は、ドキュメント配信・共有サービス「Handbook」とiPadを使い、製造現場における業務の効率化に挑んでいる。

2011年秋、タイ北部からジワリと南下してきた洪水により、セイコープレジジョン・タイランドがあるナワナコンの工業団地は一帯が水に浸かった。同社の工場も、身長ほどの深さに達した敷地内の水の圧力で建屋外壁の一部が崩れ、水が流れ込んだ。同社は1日も早い生産再開を目指し、浸水を免れた建屋2階に急ぎょラインを新設すると同時に、タイ国内にある協力工場での生産体制を整備。これと並行して新たな工場用地の取得など復興に向けて動き出した。

「新しいSPT(セイコープレジジョン・タイランド)をクリエイティブしよう」。復興に際し、矢田光永氏から同社の幹部はこうしたテーマを掲げた。そして復興と業務革新を支えるツールとして、文書や画像、動画などあらゆるドキュメントを電子化してタブレット端末で持ち運べるHandbookの可能性に目を付けた。

製造現場の大幅時短などで手応え Handbook利用者のすそ野拡大へ

セイコープレジジョン・タイランドはまず、2012年5月末に2台のiPadを導入すると共に、製造現場で作業内容の確認・指示に用いる技術関連ドキュメントと、復興状況のレポートを電子化。それらをHandbookに登録

して矢田氏と徳増 洋一氏の2人がiPadで閲覧・共有を始めた。

Handbookはドキュメントの登録や更新が容易なため、「常に最新の情報をアップデートして共有する用途に使えるそうだ」(矢田氏)。Handbookにドキュメントを登録しておけば、多くの情報をタブレット端末に格納して常に携行できるので、「製造現場と事務所の行き来に1往復あたり10分程度かかっていた時間を大幅に短縮できる」(徳増氏)。

そんな手応えを得た同社は9月以降、Handbook利用者のすそ野を広げる狙いで、段階的にiPadを追加導入。2013年1月には、品質保証部門や営業部門を含め約50人いるマネージャー全員にiPadを配布し、Handbookによる情報の共有と活用を本格化した。Handbookに登録済みのドキュメントは現在、溶接の規定などを定めた作業標準書の一部や毎月の生産状況レポートなど約30種類。今後は営業関連資料を含め対象を広げていく考えだ。

精密機器メーカーの現場に広がる Handbookに“うってつけ”の環境

精密機器メーカーの業務革新と、HandbookおよびiPadの活用。この種の事例は世界的に見てもまだ希なだけに、両者の間に存在する高い親和性を直感的には把握しにくいかもしれない。しかし実際は、精密機器メーカーにはHandbookに“うってつけ”の環境が広がっている。その最たる例の1つが、1cm³の空間に含まれる0.5ミクロン径の粒子数が多くても約3個というクリーンルームである。

「クリーンルームはわずかな埃も許されません。そのため外部から室内に持ち込めるものを制限しています」と矢田氏は説明する。クリーンルームで作業に就く従業員は全員がクリーンウェアを着用するのはもちろん、「ファン



デーションが舞うと製品の品質に影響が出かねないので女性は化粧もしません」(増田 修一氏)。さらに、「室内でトナーが落ちないようにするため、クリーンルーム内に持ち込む印刷物はラミネート加工するか、事前に専用の用紙に印刷し直します」(徳増氏)。

このようにクリーンルームは極めてデリケートな環境になっている。だからこそ、「HandbookとiPadを組み合わせる使うインパクトが大きいのです」とセイコープレジジョン・タイランドの幹部は口をそろえる。iPadは駆動機構を持たないため、ノートパソコンのように冷却ファンの送風口から埃を吹き出す心配がない。併せてHandbookを使えば、図面や仕様など色々な情報をクリーンルームに持って入れる。その結果、「例えばクリーンルーム内で気になる点があった時に、その場で従業員を集めて作業の留意点を確認・説明するなど、今までは難しかったような働き方も可能になります」と増田氏は期待する。

セイコープレジジョン・タイランドにおけるHandbookの本格活用はまだスタートしたばかり。だが、机上ではなく、現場での実利用を通じてHandbook全面展開の必然性を見出した同社の取り組みは、一気に加速するだろう。そして同社をリファレンスにして、親会社である日本のセイコープレジジョンやグループ会社に、Handbookを駆使した業務革新の波が広がるかもしれない。



アステリア株式会社

〒140-0014 東京都品川区大井 1-47-1 NTビル10F
Tel : 03-5718-1250 E-Mail : handbook@asteria.com
WEB : <https://handbook.jp/>